

下宿生の1日あたりの生活費は7年連続で1000円以下に！

教育資金の積立の平均年数は16年以上、3人に1人が借入で教育費を調達

- 2022年度私立大学生保護者の家計負担調査アンケートの概要 -

京都私立大学教職員組合公費助成推進会議
(略称：京都私大公助推進会議)

はじめに

京都私立大学教職員組合公費助成推進会議は、2022年5月～10月にかけて、私立大学に通う学生の保護者を対象に教育費の負担状況等を明らかにするアンケート調査を実施しました。本調査は1988年から実施しており、2022年度で35回目となります。

今年度の調査は、京都先端科学大学、京都橘大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学に在籍する学生の保護者の方々にご協力いただきました。

◆調査の経過、対象、方法

- (1) 本調査は1988年から実施し、2022年度で35回目となります。
- (2) 調査方法は、郵送によるアンケート用紙の配布・回収です（一部Web回答を含む）。
- (3) 本調査には、京都先端科学大学、京都橘大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学に通学する学生の保護者の皆様にご協力いただきました。
- (4) 今回は、6,442名の方々のご協力により貴重なデータを集めることができました。
- (5) 本調査を行なった京都私大公助推進会議は、京都・滋賀にある17の私大教職員組合で構成され、学費負担の軽減と奨学金制度の改善、私立大学・短期大学への公費助成の増額を目的に活動しています。

I. 受験から入学までの費用

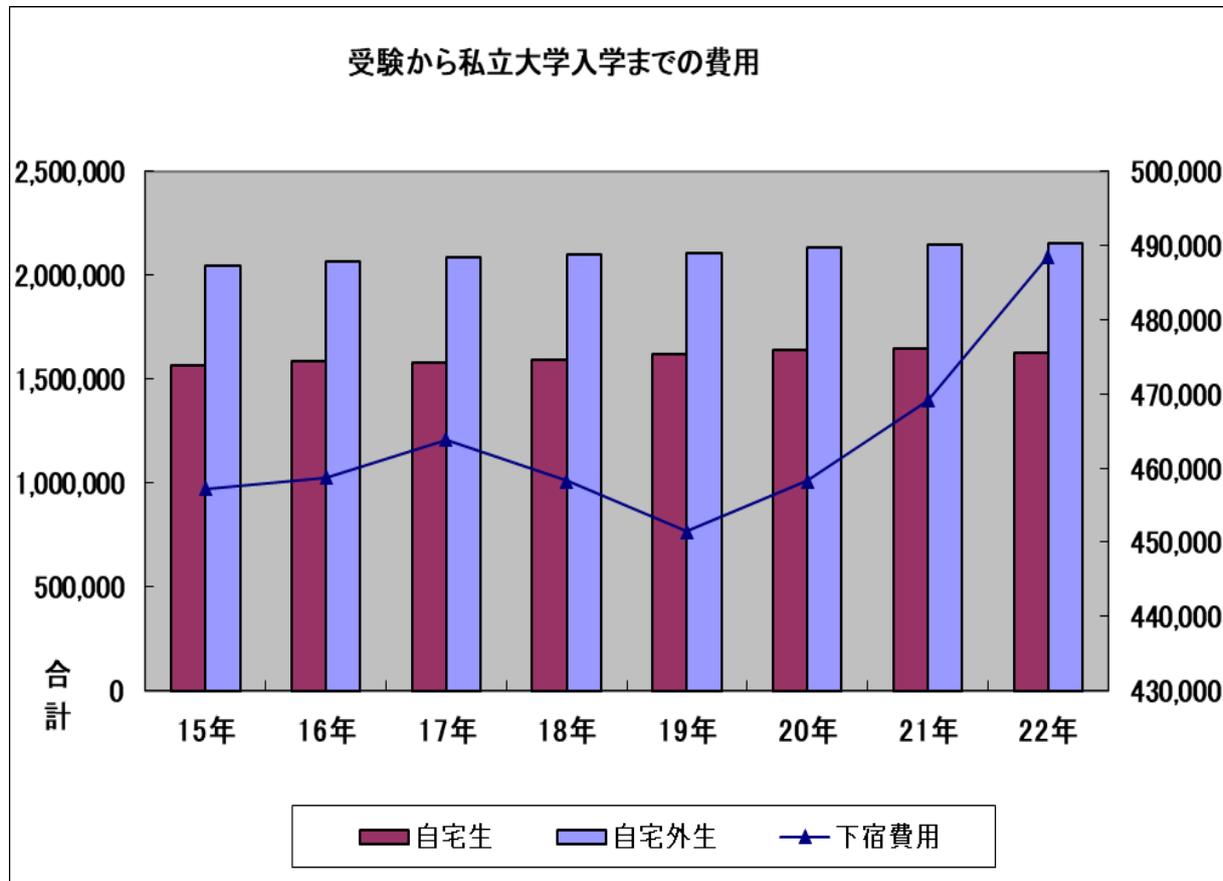
受験から入学までにかかった費用は、**自宅生で162万8433円（昨年比-18,053円）、自宅外生で215万165円（昨年比+3,802円）**となっています。また、「受験から私立大学入学までの費用（自宅外生）」の総額に占める初年度納付金（入学金+授業料等）の割合が約**63.1%**（昨年度約63.2%）となっており、依然として入学時の費用負担は保護者にとって、非常に重いものとなっている実状が浮き彫りになりました。

◎受験から私立大学入学までの費用

【円】

	受験費用	受験回数	初年度納付金	礼金・敷金	家賃	生活用品	合計
自宅生（15年）	253,643	4.7	1,308,962	-	-	-	1,562,605
“（16年）	271,430	4.7	1,316,816	-	-	-	1,588,246
“（17年）	263,762	4.7	1,316,816	-	-	-	1,580,578
“（18年）	258,509	4.6	1,333,418	-	-	-	1,591,927
“（19年）	280,288	4.8	1,336,033	-	-	-	1,616,321
“（20年）	300,523	5.0	1,340,723	-	-	-	1,641,246
“（21年）	289,406	4.6	1,357,080	-	-	-	1,646,486
“（22年）	271,353	4.0回	1,357,080	-	-	-	1,628,433
自宅外生（15年）	281,944	4.4	1,308,962	153,718	50,525	252,989	2,048,138
“（16年）	291,641	4.4	1,316,816	154,867	49,878	253,957	2,067,159
“（17年）	302,935	4.3	1,316,816	160,039	50,453	253,339	2,083,582
“（18年）	304,346	4.2	1,333,418	161,726	52,398	244,104	2,095,992
“（19年）	315,703	4.4	1,336,033	168,369	52,743	230,332	2,103,180
“（20年）	334,455	4.6	1,340,723	171,033	53,349	233,882	2,133,442
“（21年）	320,138	4.5	1,357,080	175,319	54,923	238,903	2,146,363
“（22年）	304,577	4.1回	1,357,080	188,919	55,898	243,691	2,150,165

※初年度納付金は、文部科学省「令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果」を参照。



II. 「入学の年にかかる費用」の総額について

自宅外通学者（新入生）の「入学の年にかかる費用」の総額は、**286万3,525円**となっています。この費用は、自宅外通学者の家庭の年収（平均944万5,415円）の約30.3%を占めています。

(1) 入学の年にかかる費用の総計（自宅外通学者）

受験から私立大学 入学までの費用 215万0165円	+	仕送り額 (4月～12月) 71万3360円	=	入学の年にかかる 費用の総計 286万3,525円
----------------------------------	---	------------------------------	---	----------------------------------------

* 「仕送り額」の合計については、4～5月分は「5月の仕送り額」（平均80,978円）を、6～12月分は「6月の仕送り額」（平均78,772円）を基に算出しています。

(2) 税込年収に占める「入学の年にかかる費用」の割合

入学の年にかかる費用 286万3,525円	=	年収に 占める割合 約30.3%
平均税込年収（自宅外） 944万5,415円		

(3) 自宅外通学者の「入学の年にかかる費用」

円

	受験費用	住居費	私大初年度 納付金	仕送り額 (4月～12月)	合計	前年度比
平均	304,577	488,508	1,357,080	713,360	2,863,525	0.55%
増減額	-15,561	19,363		11,966	15,768	

※初年度納付金は、文部科学省「令和3年度入学者に係る学生納付金等調査結果」を参照。

(4) 「入学の年にかかる費用」の推移

円

住居別	17年	18年	19年	20年	21年	22年
自宅外 (増減費)	2,805,116 0.5%	2,796,340 -0.3%	2,834,798 1.3%	2,802,259 -1.14%	2,847,757 1.6%	2,863,525 0.55%
自宅 (増減費)	1,597,180 0.56%	1,591,927 -0.32%	1,616,321 1.5%	1,641,246 1.5%	1,646,486 0.3%	1,628,433 -1.09%

Ⅲ. 「奨学金」「教育資金の積立て」について

新入生で「奨学金」を「申請する予定」と回答した割合は、**全体の 41.7%**に上っています。その一方、「家計でやり繰りする」(31.2%)と「返済義務があるため」(28.2%)に「奨学金」を申請しないと回答する割合は、今回の調査で全体の6割近くに達しており、卒業後に多額の奨学金を返済しなければならない状況を考え、奨学金の借り入れを控える傾向が続いています。

教育資金の積立については、1回生の保護者の**65%以上が「積立をしている」と回答するとともに、「積立年数は平均(全回生)「16.4年」と長い年月をかけて教育資金を積み立てており、重い教育費の負担に備えている状況が分かります。**

(1) 申請する予定か、あるいは既に受給しているか [左；人数、右；割合]

	はい		いいえ		記入なし		合計	
1回生	1,418	41.7%	1,980	58.2%	4	0.1%	3,402	100%
2回生	787	40.7%	1,149	59.3%	0	0.0%	1,936	100%
3回生	385	37.4%	643	62.4%	2	0.2%	1,030	100%
4回生	30	42.9%	40	57.1%	0	0.0%	70	100%
5回生以上	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100%
記入なし	0	0.0%	3	100.0%	0	0.0%	3	100%
合計	2,621	40.7%	3,815	59.2%	6	0.1%	6,442	100%

(2) 申請しない、あるいは受給していない理由 [左；人数、右；割合]

	申請基準に合わず		手続きが面倒		返済義務のため			
1回生	895	30.2%	172	5.8%	836	28.2%		
2回生	510	29.2%	96	5.5%	502	28.7%		
3回生	303	31.3%	39	4.0%	267	27.6%		
4回生	18	31.6%	4	7.0%	13	22.8%		
5回生以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%		
記入なし	1	0.0%	1	0.0%	1	0.0%		
合計	1,727	30.1%	312	5.4%	1,619	28.2%		
	制度を知らない		家計でやり繰りする		その他		合計	
1回生	69	2.3%	924	31.2%	70	2.4%	2,966	100%
2回生	32	1.8%	576	32.9%	33	1.9%	1,749	100%
3回生	9	0.9%	334	34.5%	16	1.7%	968	100%
4回生	0	0.0%	21	36.8%	1	1.8%	57	100%
5回生以上	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
記入なし	0	0.0%	1	0.0%	0	0.0%	4	0.0%
合計	110	1.9%	1,856	32.3%	120	2.1%	5,744	100%

(※一人、2つまで回答可)

(3) 教育資金の積立てについて

①積立ての有無

[左；人数、右；割合]

	はい		いいえ		記入なし		合計	
1回生	2,237	65.8%	1,159	34.1%	6	0.2%	3,402	100%
2回生	1,235	63.8%	698	36.1%	3	0.2%	1,936	100%
3回生	688	66.8%	340	33.0%	2	0.2%	1,030	100%
4回生	49	70.0%	21	30.0%	0	0.0%	70	100%
5回生以上	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	1	100%
記入なし	2	66.7%	1	33.3%	0	0.0%	3	100%
合計	4,211	65.4%	2,220	34.5%	11	0.2%	6,442	100%

②積立て年数と平均月額

	開始年齢	積立年数	平均月額
1回生	1.7歳	16.2年	14,403円
2回生	1.6歳	16.5年	14,508円
3回生	1.3歳	16.8年	15,618円
4回生	1.2歳	16.7年	10,872円
5回生以上	-	-	-
記入なし	0.0歳	18.0年	19,000円
平均	1.6歳	16.4年	14,592円

IV. 大学への納付金に対する負担感について

大学への納付金(授業料等)の負担感について、**93.5%**が「**重い**」(「**大変重い(54.5%)**」+「**重い(39.0%)**」)と回答しており、私立大学生を持つ家庭の中で納付金に対する「負担感」の大きさを示しています。

[左;人数、右;割合]

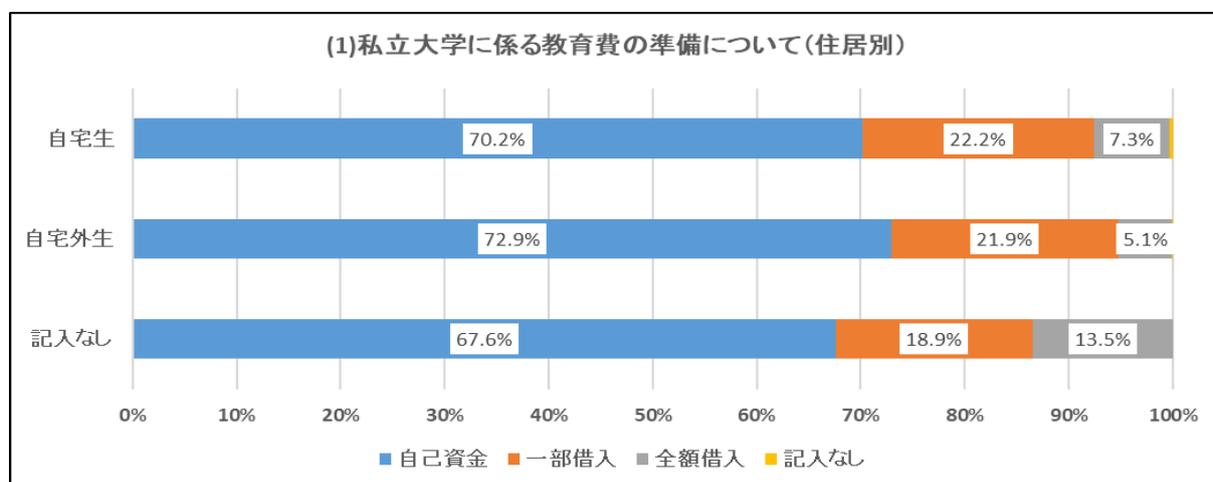
	大変重い		重い		それ程重くない		重くない		記入なし		合計	
1回生	1,894	55.7%	1,289	37.9%	176	5.2%	38	1.1%	5	0.1%	3,402	100%
2回生	1,038	53.6%	782	40.4%	95	4.9%	18	0.9%	3	0.2%	1,936	100%
3回生	534	51.8%	412	40.0%	75	7.3%	8	0.8%	1	0.1%	1,030	100%
4回生	42	60.0%	26	37.1%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	70	100%
5回生以上	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100%
記入なし	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100%
合計	3,510	54.5%	2,511	39.0%	348	5.4%	64	1.0%	9	0.1%	6,442	100%

V. 学費などの準備について

私立大学にかかる「教育費」の準備(自宅生)について、「**一部借入(22.2%)**」と「**全額借入(7.3%)**」を合計すると、**約3人に1人が「借入」**で調達する状況となっています。また、学年別で見ると学年が上がるごとに「借入」で調達する割合が増えています。

(1) 私立大学にかかる「教育費の準備について」(自宅生・自宅外生) [左:人数、右:割合]

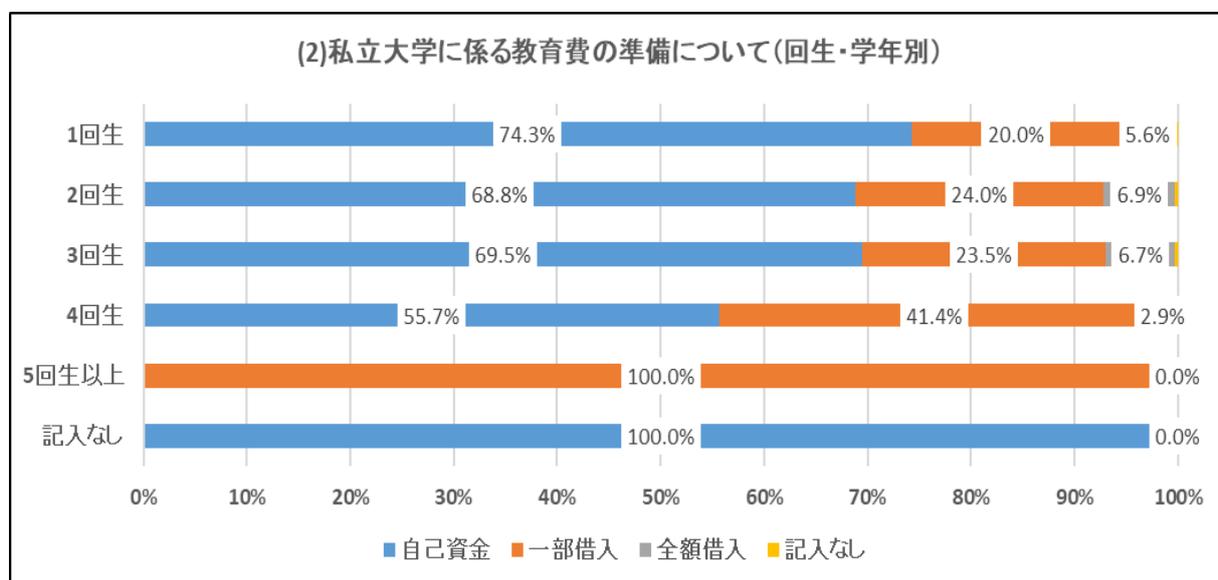
	自己資金		一部借入		全額借入		記入なし		合計	
自宅生	2,040	70.2%	644	22.2%	211	7.3%	9	0.3%	2,904	100%
自宅外生	2,551	72.9%	766	21.9%	180	5.1%	4	0.1%	3,501	100%
記入なし	25	67.6%	7	18.9%	5	13.5%	0	0.0%	37	100%
合計	4,616	71.7%	1,417	22.0%	396	6.1%	13	0.2%	6,442	100%



(2) 私立大学にかかる「教育費の準備について」(回生・学年別)

[左:人数、右:割合]

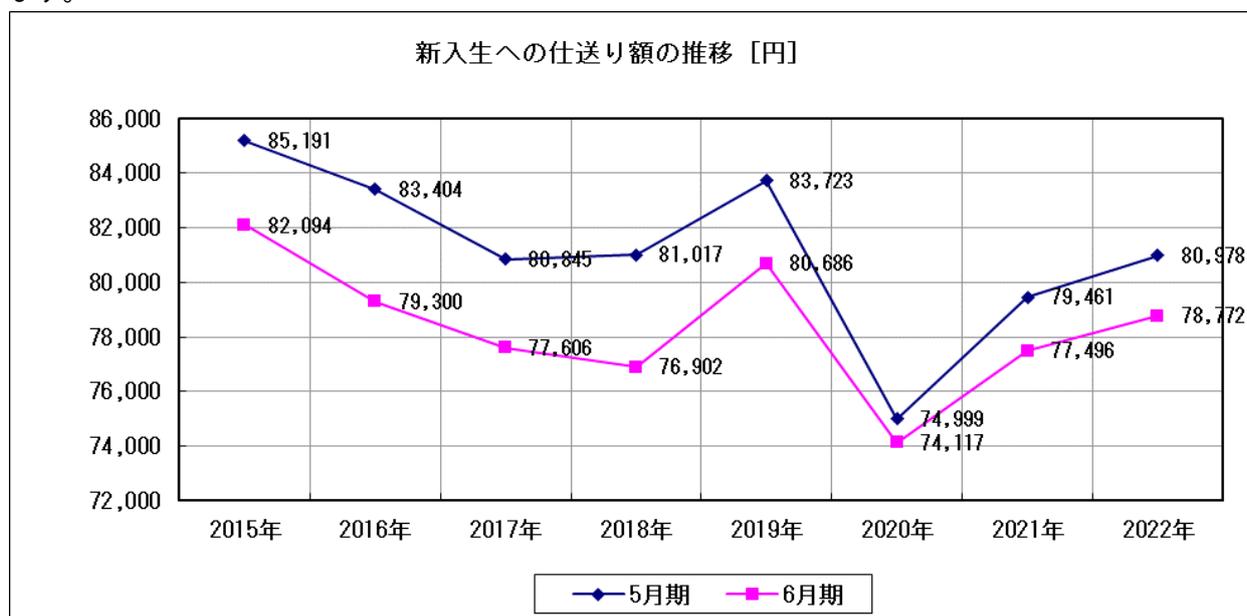
	自己資金		一部借入		全額借入		記入なし		合計	
1回生	2,526	74.3%	680	20.0%	191	5.6%	5	0.1%	3,402	100%
2回生	1,332	68.8%	465	24.0%	134	6.9%	5	0.3%	1,936	100%
3回生	716	69.5%	242	23.5%	69	6.7%	3	0.3%	1,030	100%
4回生	39	55.7%	29	41.4%	2	2.9%	0	0.0%	70	100%
5回生以上	0	0.0%	1	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	100%
記入なし	3	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100%
合計	4,616	71.7%	1,417	22.0%	396	6.1%	13	0.2%	6,442	100%



VI. 仕送り額の推移について

新入生の仕送り額は、昨年度より若干回復(6月期の仕送り額「平均78,772円(前年比+1,276円)」)傾向にあるものの、家賃(平均55,898円)を差し引くと22,874円しか残らず、1日あたり約762円(昨年728円)で生活を送ることになります。そのため、学生がアルバイトをして生活費を稼ぐことを余儀なくされている状況は続いており、学業に専念できる継続的な経済支援が求められます。

なお、仕送り額(6月期)の過去最高年度は1998年の11万6223円、1日あたりの生活費の過去最高年度は1995年度の2337円です。仕送り額は3割以上減少し、生活費は約3分の1の水準まで落ち込んでいます。



※参考データ (1日当たりの生活費の推移)

2015年度：1日当たりの生活費 約1052円
 2016年度：1日当たりの生活費 約980円
 2017年度：1日当たりの生活費 約905円
 2018年度：1日当たりの生活費 約816円
 2019年度：1日当たりの生活費 約931円
 2020年度：1日当たりの生活費 約693円
 2021年度：1日当たりの生活費 約728円

Ⅶ. 学生のアルバイト収入について

学生のアルバイト収入は、昨年度と比較すると若干回復傾向にあるものの、多くの学生が交通費や教材費、携帯代など学生生活に必要な費用を稼ぐためにアルバイトをしている状況にある中で、学生が学業に専念できるようにするため、給付型奨学金の拡充をはじめ学生への手厚い経済支援が求められます。

学生のアルバイト収入 (2021年度調査) [円]

	自宅生	自宅外生	記入なし	平均
1回生	38,242	33,534	44,000	36,255
2回生	45,063	38,538	37,188	41,719
3回生	43,684	39,591	39,167	41,401
4回生	41,429	42,864	—	42,163
5回生以上	30,000	47,500	—	44,000
記入なし	50,000	30,000	—	40,000
平均	41,118	36,639	38,939	38,995

学生のアルバイト収入 (2022年度調査) [円]

	自宅生	自宅外生	記入なし	平均
1回生	38,805 (+563円)	36,351 (+2817円)	40,000	37,698 (+1443円)
2回生	45,266 (+203円)	40,642 (+2104円)	45,000	42,839 (+1120円)
3回生	43,370 (-314円)	41,177 (+1586円)	48,333	42,133 (+732円)
4回生	44,054 (+2,625)	31,563 (-11301円)	—	40,283 (-1880円)
5回生以上	—	20,000 (-27500円)	—	20,000 (-24000円)
記入なし	—	—	30,000	30,000 (-10000円)
平均	41,654 (+536円)	38,875 (+2236円)	44,773	40,285 (+1,290)

※カッコ内は前年との比較金額

【参照】

アルバイト収入の推移 (全回生) [円]

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
自宅生	39,131	39,593	41,381	41,169	44,028	41,118	41,654
自宅外生	35,912	36,587	37,864	38,157	41,308	36,639	38,875
平均	37,469	38,118	39,618	39,690	42,825	38,995	40,285

アルバイト収入の推移 (新入生) [円]

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
自宅生	36,097	36,852	37,489	37,039	42,739	38,242	38,805
自宅外生	33,758	34,190	34,123	34,373	39,169	33,534	36,351

Ⅷ. アンケートに寄せられた保護者からの声（自由記述より抜粋）

<コロナ関連>

- * 初めての一人暮らしや人間関係、長引くコロナで心が疲れています。カウンセリング、心のケアの充実をよろしく願いいたします。
- * コロナ感染拡大の不安はあるが 極力対面授業でお願いしたい。あまり大学生らしい生活が送れていない様な感じがする。学校で友達と授業を受けたわいも無い話をするという当たり前のことを送らせたい。
- * コロナ禍で過去2年間よりは、かなり以前の生活に戻りつつあるとは思いますが、やはり子供を見ていると、孤立感があるように思われて、とても心配です。
- * 昨年は入学したものの、その数日後にはリモートのみの授業となり絶望感でしかなかったです。コロナ禍でたくさんの規制がわかり色々な面で大変でした。楽しく通学、大学生生活がこれからもずっとできるように願っています。
- * 入学時からコロナのためあまり設備や対面授業が受けられずとても残念に思いながら過ごしています。残りの大学生活が充実したものに少しでもなるよう 3 回生にも学校へ通うきっかけ作りや働きかけを学校から行っていただきたいです。
- * 大学入学とコロナが同時期だった子を持つ保護者です。初めて親元を離れ生活すること、大学での楽しい交友関係、アルバイトをすること全てが断たれました。オンライン授業でしっかり学べているのか不安です。それで大学生活のほとんどが過ぎ、来年は就職活動。子どももですが私たち保護者も就職できるか不安です。大学としてしっかりフォローしていただきたいです。
- * コロナ禍のためアルバイトやサークル活動を行わないまま、就職を迎えそうです。今からでも何か体験ができればと思います。
- * 自宅外で一人暮らしのため孤立が激しくコロナの影響で友人ができにくい。何か対策があればありがたいです。
- * コロナ禍で、2020 年春入学の娘の大学生活は大いに困難なものとなりました。アルバイトも学生生活も思うに任せない中、精神的にも追い詰められ、病院での受診を余儀なくされました。子どものことが心配で行き来が増え、経費も倍増。収入との関係で

奨学金が望めず、子沢山で税金が重いので絶えず苦勞しています。もつとのびのびと学ばせてやりたかったと残念でなりません。

<学費・家計>

- * 地方の優秀な意欲のある学生が経済的な理由で都市部の私大を断念することは大きな損失です。定員や費用の面で地方受験生への理解やサポートが進むことを望みます。
- * 授業料や生活費のため、アルバイトに時間を使っている子どもに申し訳ない気持ちです。学業のみに専念できる環境の国になってくれたらと思います。
- * 私大助成拡充のための署名活動ありがとうございます。大学卒業までは親の務めであると思い毎日切り詰めて生活しています。進学したいのに諦めている高校生も多いと思います。日本の将来のためにも少ない子どもたち（日本の宝）に勉学の機会が広がりますようお願いいたします。
- * 本人が努力して努力して入った大学を、親が学費を用意できず中退させることになってしまうことだけは何としても避けたいです。
- * 教育費が重すぎます。子どもには子どもを産まず、老後の資金を自分で貯めるように言っています。子どもを育てるにはお金がかかりすぎます。
- * とにかく家庭に対する教育費の負担が、大学へ入ってから急激に負担が大きくなり苦しい。年収はそれなりにあるものの、そのせいで高校無償化の対象にもならず、奨学金も受けられない。少子化で子どもをたくさん産んだことで、逆にしんどくなるとは、ひどい話である。
- * 子どものためだと仕事を増やし、収入を上げても奨学金は減る。税金が上がる。何のために働くのだらうと辛くなりました。物価も上がり大変です。
- * 志望の大学に合格するまで塾代もかなりの費用がかかり、現在の入試制度だと受験回数（試験回数）がかなりの数になるため、多額の費用が必要となりました。入学しても高額な学費を払わなければならないのに、平均所得だと補助金はほとんどありません。入試制度含めて改革を願います。

<奨学金>

- * 奨学金の返済について、将来に不安があります。授業料が高価すぎて、奨学金では賅えず、家計から手出し、もしくは金融機関より貸付を受けないと授業料が払えません。就職しても返済額が大きいこと、親も助けてやらないといけないような状況です。親も何歳まで働けるのか、老後のこともありますので、将来がとても不安です。
- * 奨学金制度があることはわかっていますが、入制限をかけられているので思った通りに手続きができません。返済する奨学金であれば基準を緩めていただき活用しやすい環境を作ってほしいです。
- * 学生全員が受けられる給付の奨学金を早く取り入れて欲しい。
- * 奨学金が給付であるとありがたいです。子どもは社会に出た時から借金を背負ってしまうこととなります。
- * 私立大学の授業料が高すぎる。奨学金の親の所得制限を無くしてほしい。
- * 教育費負担が大変重いです。奨学金基準の緩和をお願いします。
- * 奨学金は様々ありますが、収入制限などがあります。その家庭ごとに介護にお金がかかるなどもあります。子どもの教育のために子どもにかかるお金に関しては、制限などないありがたいです。
- * 奨学金を受けたいのですが、基準に合わず受けることができません。また学部による学費の違いや、下宿による負担増で生活を圧迫しています。その辺りの条件の見直しをしていただくと助かります。
- * 高校卒業後、留学や社会人となった後の学び直し、また病気治療による月日の経過など様々な事情を考慮して、希望する人に行き届くよう、奨学金に関する制限は廃止してほしいと願います。

<就職>

- * 就職指導及びアドバイスをよろしくお願いたします。
- * インターンなど就活に長期間学生が縛られない形で、本来の勉学中心の大学生活を送れるよう働きかけていただきたいです。就活が3年生から始まっているようで長すぎます。大学は就職のための機関ではないはずです。

<国への要望>

- * 大学の学費が高額すぎる。所得に関係なく学べる機会が与えられるべき。学生本人の意思で大学進学し学ぶことができる制度を国が作るべき。
- * 優秀な学生たちが貧困などを理由に進学が叶わなかったりすることがあるならばそれは国にとって大きな損失と考えます。人材は国が育てるべきです。教育の無償化を強く希望します。
- * 大学生が授業料と生活資金の為に、アルバイト優先の日々に追われ、授業に出席をしたくても出来ない状況で本末転倒だと言う現状を国がもっと対策して欲しいです。将来を担っていく若者の学びの環境を整えて大学への助成金等で授業料の負担を軽くしてもらうことを強く強く願います。
- * 国は少子化対策で出産や就学前や小学生への支援に力を入れているが、多額のお金が必要になる大学生がいる家庭への取り組みを考えてもらいたいです。
- * 日本の教育費が高すぎて子どもを作らなくなってきたように思います。中学・高校・大学・大学院まで無償にして、子どもを産みやすい社会にしてほしいです。子どもが少ない国は今後だめになって行きますので。
- * 学費を所得税の控除対象となるよう働きかけていってほしい。
- * 大学進学を家庭の経済状況で諦めざるを得ない子どもたちがいなくなるような政策を求めます。
- * 日本はお金がないと大学にも入れない、と思ってしまう。せめて高校までの授業料無償化、国公立と私立大学の授業料の差を縮めるなど、国としてもっと手厚く対策を講じて欲しい。3~5歳児の保育無償化など、子育てで1番お金がかかる時期を政府は理解していない、と感じる。

<その他>

- * 宗教や悪質な販売などの勧誘に引っかからないよう大学側からも学生に注意喚起をしていただきたい。
- * 一人暮らしでは、節約面も含め栄養バランスが崩れた食生活になりがちなので、低価格で提供される食堂(朝・昼・夕)があれば非常にありがたいと思います。